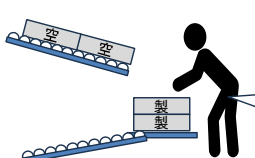


<b>作品名</b>	すーつと、しゅーつと、シューート	<b>アピールポイント</b>
		<b>定点作業</b>

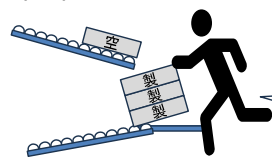
**作品概要**  
製品箱詰め後ペダルを踏む事で箱が自重で下降し、次の箱を重ねる事で、常に同じ高さで作業が出来る様シュートの作成実施。  
また規定の箱数まで製品を入れ、ペダルを踏む事で自動で完成品を排出し、再度テーブルを上昇させるようなシュートを作成した事で手扱い作業が低減できた。

**改善前**

組付製品を箱詰め後、次の箱を重ねていくが、箱分の高さが少しずつ上がる為、作業位置が変わる為、一定のスピードでの作業が出来ない為、作業にバラつきが出る。  
また規定高さまで段積み後、箱を奥に押し込みシュートへ流す作業を行っており、体への負担も掛かる作業をしていた。



姿勢が安定せず  
やりにくい  
作業しにくい

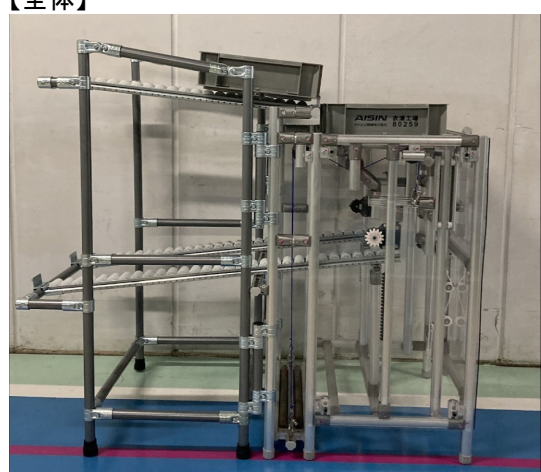


製品箱を押し込む為  
重いので疲れる  
姿勢が不安定で危ない


<b>着眼点</b>	一定の高さで作業することが出来ないか？ 箱の重量により自重で下げることが出来ないか？ 下がり切った際に箱を自動で排出出来ないか？	<b>作品区分</b>	<b>作品の種類</b>
		<b>その他</b>	<b>改善現物</b>
		<b>動力源</b>	<b>力の伝達機構</b>
		<b>重力</b>	<b>輪軸・滑車</b>

**改善後**


【全体】

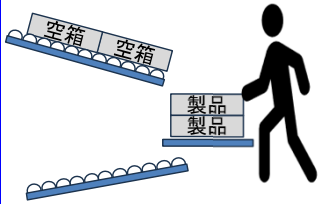


【リフター部①】

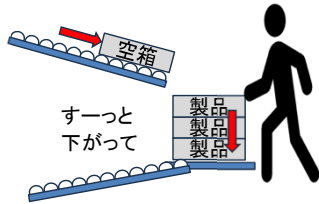


【リフター部②】



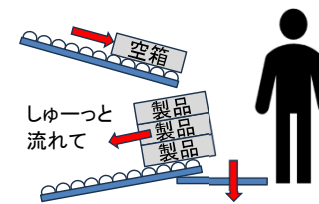


箱詰め作業し、完了後  
レバー操作する



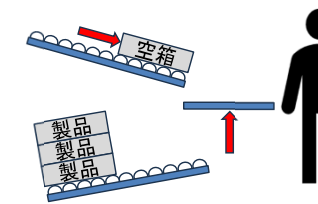
すーつと  
下がって

リフターが1段分下降後  
次の箱を載せ箱詰め



しゅーつと  
流れて

規定段数作業後、レバー  
操作で下降端まで下がり  
シュートへ乗り移る



箱がシュートに流れると  
リフターが錘で上昇し  
1段目の高さまで戻る

製品を箱詰め後、レバーを叩くことで箱の重量で下降し、次の段積み高さで停止する為、空箱を載せる事で常に同じ高さでの作業が出来る様になり一定のスピードで作業が出来るようになった。  
さらに規定段数まで箱詰め後、レバーを叩くことで下降端まで下がる事で、傾斜したローラーに乗り、自動で排出され、リフターへの重量がなくなる事でリフターが錘で上昇する様にした。

<b>効果</b>	<b>投人工数減</b>
	▲ 1秒X740回/日X244日X30円 = 5,400千円/年-投資188千円 = 効果5,212千円
	横展 7ラインx5,212千円 = 36,484千円